



考古畫譜

四三

子學
398
3





考古画譜卷三

多部

大内裏圖

好古小錄云南都故家所傳神泉苑所傳東寺所傳
 一故家所傳巨遠抄所載國古本拾芥抄所載國校
 本拾芥抄所載國印本拾芥抄所載豐樂院醍醐寺
 所傳國應永千分一國各小異同アリテ各益アリ但
 應永千分一國画ニ所傳國ハ諸國ニ及ハス
 又云朝堂院諸國年中行事繪ト合ハス年中行事画
 ハ保元造内裏ノ制全盛ノ時式ニ非ス



又云木工總官ニ古ク傳フルト云大内裏圖アリ大内裏ノ
結構ヲ不知モノ偽作也先輩此圖ヲ珍重ス怪シムヘシ
國朝書目云大内裏圖南都一鋪所傳一卷醍醐水本坊
一鋪又一卷大内裏皇居圖一鋪又一卷

全一卷

後画公忠公味記應安二年二月九日云大内拾圖不審事有之仍借請九
條前関白経教之處被送繪廣幅繪書之卷繪也者院々方忠
之至也十三日大内繪返遺九條了

全

後深心院関白記永和元年五月廿八日云及晚自仙洞下御書平戸

六記貞應二年六卷下借昨日以顯保又大内圖所持之由間合

六可進莫之由々仰之間即進之圖者累代之本也廿九日
六及晚自仙洞下御書大内繪所被返下也

大内裏考證圖 八卷

裏松光世入道固禪撰圖考證本一篇五
十卷別錄十卷

全 九鋪

京城畧圖宮城圖神祇官圖大政官圖八省院圖氏德
殿圖豐樂院圖大學寮圖真言院圖
此九は尾張大納言殿の御事了りて裏松少
納言入道此の御事了りて大内裡圖考証五十卷別錄十

卷を神正す。時流いては、流るる出きりや、内をいむねを
其説子隨ふと、いともた、其丈た、其まゝへ、
も、も、わらぬ、ば、ま、法、ま、く、ひ、い、あ、何、四、記、を、尋、ね、て、や、む
を、を、え、い、あ、ら、く、色、を、れ、一、は、く、お、有、く、は、ま、り
の、本、を、あ、り、と、れ、く、地、一、へ、子、ら、ま、あ、う、ち、も、も
れ、を、と、ま、一、天、保、二、年、庚、子、の、と、く、や、う、ひ、ま、り
かく、り、ま、り、ま、り、一、は、何、や、ま、内、藤、廣、前、撰

太政官正廳圖 一鋪

國朝書目載之

大嘗會御禊禊宮圖 一鋪

同書載之

大嘗會御屏風

本朝画史云、繪所預文章博士藤原光範、同左史生

中原景弘、同大藏史生、依伯季、同修理進、藤原有宗

悠紀墨繪之役、内匠廿九、中原光永、悠紀中原吉久、悠紀為作

繪有職家稱新色至濃者曰、繪所預文章博士藤原業実、主右史生

中原清俊、主主稅史生、大中匠国基、主藤原行安、主基

藤原宗弘、主作画、右十一人、画工者見于二條殿玉海中

世大嘗會時應製者也

土佐系圖云行秀号春日行廣男永享二年大嘗會終紀方御
屏風及標山調進

同書云光弘号土佐行秀男永享二年大嘗會主基方御屏風及

標山調進

書手

帝王編年記所載歷朝大嘗會御屏風能書家姓名按

粹舉画工之次

宇多仁和四十一世二
近江播磨醍醐寬平九十一世
近江丹波野美村

朱雀養平元十一世三
近江丹波野道風村上天曆九十一世六
近江播中道風

冷泉安永元十一世五
近江播磨紀時文田融天祿元十一世六
近江丹波藤依理

花山永祿三十一世一
近江丹波依理 一條寬和三十一世五
近江播中依理

三條長和元十一世三
近江丹波藤行成 後一條長和五十一世五
近江播中行成

後朱雀長元九十一世七
近江丹波藤頼 後冷泉寬治三十一世五
近江播中源兼行

後三條治曆四十一世二
近江播中兼行 白河兼保元十一世一
近江丹波兼行

堀川寬治元十一世九
近江播中藤伊房 鳥羽天仁元十一世二
近江丹波藤定實全章經

崇德保安四十一世八
近江播中近衛康治元十一世五
近江丹波藤定信

後白河久壽三十一世三
近江丹波藤朝隆 二條平治元十一世三
近江丹波藤伊行

六條仁安元十一世五
近江丹波伊行 高倉嘉應元十一世二
近江播中藤伊經

安徳壽永元十一世四
近江丹波藤朝方 後鳥羽元曆元十一世八
近江丹波

土御門建久十一世二
近江播中順徳建曆三十一世三
近江丹波

大宋御屏風

江家次弟元日宴會云御帳東西去五尺許屬北障子立大宋

御屏風

代始和抄裏出云大宋御屏風唐人の抄紙のうきまを
繪まりきまなるをいふあり

樂家錄御神聖傳云大宋御屏風表裏白張有薄彩色押繪

唐人樂馬亨弓族翔鳥之圖也

大宋子寮先聖先師九哲像 十一鋪

江家次弟釋云仁平三年八月台記先聖先師九哲像別

巨勢金富所寫也云云延久四年三月十四日甲午推中納言

隆俊卿着伏座奏大宋寮先聖先師九哲等像可し條

補日時勅文件像元慶四年巨勢金富以唐本所奉

圖繪也而年序久積破損む多し所修補也云云或説

曰吉備大臣入唐持弘文館之画像來朝安置大宰

府崇業院大臣又命百濟画師奉圖波本置大宋

寮云先聖先師古者以周公為先聖以孔子為先

師唐太宗貞觀二年以顏子為先師

國朝書目云大宋寮先聖先師九哲新本一卷

好古小錄云殘缺画者姓名不傳画所預家ハ傳ハ所世ニ

誤テ賞聖障子ノ粉本ト画力賞聖障子ノ粉本ニ及ハス

大鐵冠公影

倭錦云錄足公影巨勢金室所画談峯本尊

展覧目錄

談峯

云多武峯小野篁筆画像一幅

淡海公定惠

納于本殿長者宜あらば吾念寵をるる可きはか
道の幸條云抑大鐵冠の本像あらまらして帳を閉
く挿さるる不徳あり 又小野篁の心筆といひ傳へ
し画像ありはそれへも長者宜れられ共披封せし
ゆりしにて傳寫の影ともありしより出けまどふ
り此れも筆ありてみゆまきられ
名画拾彙云小野道風書法妙絶亦作画画多武峯護

國院藏大鐵冠神像高野山小阪房藏勢至像并祇所

画

躬行云此神像皇御筆と一或は道風朝臣と一さらは金剛
とあり其是非を志らに
本本社堂の所画といふ然るとも現存の此の模画にしてみゆま
是らに但明治のまゝの寺社廢して社とせらば談山神社といふ

全 一幀

秦致真筆

小幅

多武峯縁起

四卷

画画目云画土佐光信詞一条禪閣外野近衛基照

公

展覧目錄

談峯

云古縁起二卷

筆

如前 今分四卷

道の幸和云縁起繪詞四巻もと上下二局なり元禄の
頃修補乃時より分云々依と云画土伏光信詞一條禪
閣外題を近衛基忠公也云を後水尾院勅詔より新
画ありによし二巻あり繪住吉如慶具慶詞ハ二
條光平公城はしめて時乃公卿四十二人此筆なり

倭錦云談峯縁起土佐守行廣詞一條兼良公

談峯縁起使蒙云談峯縁起有二本古縁起者後鳥

羽院御宇建久年中談峯僧正上法院永濟製文其後

後花園院御宇文明年中一條禪閣兼良筆土伏光信

詞一説光新縁起者文章如向筆者寛文年中因後

水尾院勅々藤氏堂上四十三人筆也画亦依勅住吉如慶

同具慶

貫雄云行廣画々所々古縁起俗字塗標の似大に係りて内らる古色

を存せり惜なり
躬行按之行廣を融通念佛縁起裏書よりて應永中の人と云へ記

事論有一釋宗ハ文明十三年八十歳薨せり行廣とは聊時代おくれ

多依へし又使の家子一説光平とあるも誤也光平は光信の男天文詞

漢文画申その処々父の長短子隨ひ大小色の色紙形と作りてこれ

を出せり新縁起九よりこれと同し

今新縁起 二巻
倭錦云談峯新縁起住吉如慶具慶画筆

展談峯云依後水尾院勅住吉如慶具慶画之詞
筆者二條光平公花山院定好公鷹島司房補公二

惟康道公東園基賢卿凌大寺公信公大炊御門經孝公三條
公富公兼室賴業卿九條兼晴公鳥丸次貞慶公西園寺實
晴公油小治隆貞卿坊城依廣卿近衛基烈公梅園實清
公四辻季實卿飛鳥井雅章卿三條西實教卿日野弘資
卿正親町實豐卿柳原資行卿松本宗枝公今出川公親
公持明院基定卿數嗣孝卿園基福卿山科言行卿藤
谷為條卿小倉實起卿阿野季信卿中園季定卿堀川則康
卿勤解由小治資忠卿今堀為繼卿清水谷公榮卿冷泉
為清卿四條隆言卿清閑寺照房卿野宮補定卿桂昭
房卿廣橋貞光卿

大臣真影 二卷

豪信法印所画自花山院左府家忠公至今出川右府
兼季公大臣八十四人肖像也
卷尾云大臣影豪信法印筆也銘添画筆不可出

副外

大臣八十八人像藏在陽明藤大閣之家焉其像則僧豪
信所画而其跋語未詳其人也云画様字体一照原本
摺写著色装成六卷藏於東武秘府室永六年十月十

八日 法印豪信中務大輔德為信卿の男貞和頃の人

本朝画史云後円明寺関白兼冬公好丹青天文十一年
十月行年十四歳自画月輪兼冬公撰改光明峯寺撰改普光
園院撰改洞院教康公撰改円明寺関白之遺像为一卷非凡
手一作今在一條殿

於海公像

画之不傳藤原不比尋公像

九條家所藏

田村麻呂卿像

倭錦云阪上大宿許矩鎮行上殿像左近將監光起筆

洛東清水寺所藏

多賀大社縁起繪

一幀

傳云俊兼坊重源所画

訂副云

或云初書後人所偽造

唐僧影

一卷

画工未詳白描画祖師像稿本也

卷表記云唐本高山寺什

當麻淨上曼陀羅

一鋪

画工便覧云中將姫横佩右府豊成公女天平年宝字七
年六月入當麻寺短髮即當麻曼荼羅本願也工绣

織繪佛像最佳

但不画於彙採載之

今新曼荼羅

本朝画史云良賀以画工叙法眼位曾土御門院兼元

二年和州當麻寺僧鏡思坊良喜坊惠阿彌等合心
欲圖新曼陀羅憑按察使藤原光親奏之有勅許
詔繪師良賀源慶令寫之今所有本寺新曼陀羅是
也又云源慶叙法眼良賀預曼荼羅繪事画未成
源慶罹病而死又云源尊源慶之子也慶死後良賀
成曼陀羅圖後叙法眼

倭錦云新曼荼羅源慶筆

道の章新曼荼羅云今此本尊は新曼陀羅と建保二

年法印良賀法眼源慶の勅して影を模して文字

ハ行能御勅を奉りてかゝるに依よし厨子乃藤子也

時の帝をばづめ公卿殿上人鎌倉の右幕下大名

おほい貴賤男女の名記し阿古曼陀羅ハ其のち

まひしおれく撰をうまぬあひまし書寫して

由ことは厨子の板をえりありし成延宝年中京

都大雲院此性君とくし傳のそらひて別々全圖を

模し其上に正真乃まん書られしを殘りて家は

らゆしとりたりありきまゆとやとみ延きりむのし

巻うへをきひよそふねんり休をししを板をりし

は四條院の仁治年中のことなり

貴雅云新日曼陀羅實子比類あり武平治相語の繪は必貴
能行極小巨勢至國兼茂男有皇のまふ源慶の子冊後乃隆慶

ありて匠を載せし由史の説に由るべし

合子 一鋪

和長記文龜三年七月五日云伏見内當麻呂曼陀羅古物朽損之

間猫櫛壇張白之云仍今度有比丘尼以勸進一切令新

圖云九品配之文字並經又尋申請宸筆之間此一

西日被漆敷筆有今日不辨見之以全泥土遊莫古之

文字不及敷日被進出奇特之至也可致校合之由仰

下之間字、致校合畢點画一西字相違之処申入可

繪廣一丈六尺也根元之寸尺云、南都画師書之

此事陽明准后執奏之間被漆宸翰より即跡跡に依跡勝云

展覧目六當麻寺云大曼陀羅一幅稿系曼陀羅寫

躬行梅子展六子所載筆者を記す云といへとも上件東坊城和長記

子小処の宸翰題字の曼陀羅系云々此卿に後柏原帝子あり

乃にべし陽明准后は後法興院関白政家公有り

當麻曼陀羅緣起 二卷

顯聚目錄云當麻寺曼陀羅緣起繪鎌倉光明寺

藏

本朝画史云任吉法眼不知姓名善佛像人物兼能

花草和州當麻寺有中將姫緣起二幅

海錦云繪住吉慶恩詞後京極殿

新編鎌倉志卷七云光明寺藏淨土曼陀羅緣起二卷詞

書は後章極良經云画ハ土佐將監光興筆

躬行云此錄起元禄中安達良房所撰子孫倉光明寺云刻書以子孫書
類從亦四百廿七世跋曰右當麻寺曼陀羅錄起以相模國鎌倉光明寺所
藏後章極良真蹟一枚并画回住持法眼慶恩筆云云云云良經子ハ
建永元年二月七日薨也慶恩ハ履歷詳外らぬ云々ハ既云ハ此古
曼陀羅云縁起上下卷土佐將監真跡云々無添可將據有也
將野永真法眼記之

當麻寺縁起

三卷

画刑部大輔光茂刻後奈良帝宸翰及親王公卿集書
本朝画史執云云余所見和州當麻寺中將姫縁起風情
有餘能世其規矩

展覧目錄

當麻寺

云繪詞傳三卷画土佐光茂刻逍遙院

實隆公作書後奈良院宸翰青蓮院尊鎮法親王撰

井宮慈胤法親王迎衛尚通公同植家公聖護院道場

逍遙院實隆公西室公順僧正三條西公條公

依錦云當麻寺新縁起刑部大輔光茂

訓後奈良院親王
公卿九人筆

道の幸全云繪詞縁起三卷繪土佐光茂刻逍遙院

内府の作子後奈良院宸翰依の冊の親王公卿

西室公順僧正有と云へく九人の筆之享禄幸卯内

府の奥書あり

同寺建立繪圖

画圖品目云古土佐筆

高野山藏

大元師像 一鋪

本朝画史云大元師像十粟栖常曉所画今在硯湖
理性院矣此像者新造内裏之後懸紫宸殿修此法
曰

躬行按此法每歲自正月八日至十四日於治部省修之然画史專言新
造内裏者誤矣蓋開大元師之法者朝家最所秘崇也而偶者又像而
目除惡蛇狸并足騰擊熟人皮而手攀裸体男女之髮可謂醜怪極矣
嗚呼以此妖妄不祥之物獨朝堂上祭之以為旧式不經之見豈得可
僕哉

大威德像 一鋪

倭錦云弘法大師所画和州信貴山藏

本朝画史云弘法大師画又造神妙每寫神佛祖師之
像又能用木筆為梵漢字並佛像又有所書經卷字

皆象有物形者式云凡佛像等默晴用石油

大黑天像 一頓

倭錦云右丞相大夫信實朝臣筆 東齋護國院藏

大勝金剛像 一鋪

東寺御影堂貝足目錄云志岐守有久筆

互為御影 二鋪

同書云志岐守有久筆禪聖法印寄進之

大念佛寺緣起 二卷

画圖呂日云書尊圓親王 殿画

彈誓上人繪詞傳 二卷

書畫筆者不詳

尾張國石古志
長福寺藏

元幹嚮寓尾張日院本寺書目知之然未見其物矣
長福寺俗稱七福寺

高瀨寺緣起

一卷

法錦云巨勢有康筆

達摩堂雙紙

一卷

同書云画成爲守光重刻世尊寺行俊卿

行俊卿三木注三位應永十四年十月十日蒙光重明德也

通成寺緣起

二卷

南紀右勝志云天香山通成寺緣起二卷有繪八土仇

將監筆之由書八後十松院宸翰也上云々或曰徵書記

之由此說可然欽体勅筆ト見之右ノ緣起ヲ將軍義

熙公申良與國寺ニ来ル時被見之奥書ヲ於判形ニ給

フト也

新行拙子撰本卷末云右此所判者公方攝天正元年十二月四日
與國寺被移御座候此緣起又所判望之間即懸而目内感不針

之何れハ右勝志子義熙云と云云ハ義昭將軍此謬外但押庵隨
筆子通成寺一頁應永年中繪下土佐廣周ト阿ハ日高門双紙
を混シマシト

大山寺緣起

二卷

書画筆者不知撰本跋云利村大権現宝栴

伯耆國大山
寺藏

鏡顯從八百十五有伯耆國大山寺緣起一卷

大安寺圖

國朝書目載之

道鏡法師繪詞

二卷

書画筆者未詳 横本卷末云以豊前國大負萬宮神
主宇佐重常所持之本書寫訖從四位上修理權亮紀
延親

画図呂類云鳥羽僧正筆

躬行云呂類所載の筆者最も疑ふべし但續群書類從第九百三
一道鏡法師繪詞あり
神の詞むろ高野の天皇此御時左大臣惠美中麻呂といふ人
はしり
未の詞あり南門の位子つちぬかほりめは字位の宮はは子清
麻呂とそををむならぬむけそのち女帝ハ書てくつあ
片さわりを繪五段あり但一名惠美押膳双紙といふ

七夕草紙繪

類聚目錄載之

躬行按此柳橋子子天若丸双紙の一名
を海へし初日遊り夜をり此条より

俵藤太双紙

繪光信詞筆者未詳

黒岩金戒光明寺藏
三卷

佐錦云尤近将監行長筆

田安家藏

高館合我繪詞

一卷

画越前守行光詞世尊寺三位行忠卿

粉本在
官庫

大平記繪

十卷

画図呂目云画海北友雪

待賢門合戰屏風 二帖

遠聖軒記云神泉苑、什物三甫筆、待賢門、屏風

一、双アリ名物ナリ云、是古法眼ノ筆トイハトモサニテハ

ナレ武者繪カキノ三甫カ筆ナリ

醍醐男色繪 一卷

搦窓自語云鳥羽僧正、戲画云、或人ノ物語ニ醍醐

山某院ニ男色ノ巻有ト云リ、実否ヲシラス

母貝推云理性院ニあり未見、貝物或云三宝院ニアリ

谷川琵琶

搦面画樹下打球之圖、槽華欄木是弘長中僧唯念

所模造、其上也 安藝國伊都岐嶋社 神室

谷風琵琶

槽紫檀搦面画波犀圖 亦名知花伏見 宮御藏

高倉宮肖像 一幀

筆者未詳 模本云岩代國會津郡 高倉宮藏

丹波康賴肖像

画ニ姓ハ不傳

画中記云醫博士肖像、所傳盛長、為祭祀更模之、延

文心申八月典藥頭 西京淺井三河守藏

稟書云針博士醫博士賜丹波宿禰左衛門佐經五位

上

模本云元祐元年甲子十月十日以原本模寫嵯川親胤梅子
延文五年丁酉画し丁申ハ

知部

中殿御會圖

一卷

画右京権大夫信實朝臣公宴之侍臣容貌画真記
文并書從三位行能卿

本朝画史云信實藤隆信子也二和歌右長於写真
諸画亦優柔為中世妙手九條家有順德院中殿

御會圖

中殿清涼殿也曾集群臣作款御會其後有
御遊天子權琵琶諸臣各把樂器

為可大

卷當時之名臣皆列于圖信實不預

粉本記云此一軸者順德院御宇建保六年於清涼殿
開公宴圖也行能信實陪其席行能記公宴大概信實

國勝會及群臣真容可謂千載珍奇也其真跡秘官庫
不得輒見伯三位雅喬王辱蒙勅免騰寫之余強請
雅喬王書寫之訖寬文八龍集戊申仲春上浣朝議
大夫侍讀吏部少卿清原経賢 押

谷慶丹云九條殿即本波御殿燒失之依之住吉如慶奉命以重
代於本画之

字系田可為云原本白描今猶存于九條殿
貫雄云狩野永納所寫有着色之本

躬行云中殿御會圖の結構設色れらんと疑ひるべし官庫於
本亦着色あり但群書類從中ニテ一收之圖縮小且精しくら

陣座寄障子

江家及中軒廊云九近陣圖李廣射石養由射猿
仍左官人多善射右近陣画伯樂逢塩車仍右官

人多能騎

古今著聞集 卷十 陣の座乃上子李將軍々虎也射ま

障子を寄りけ枝書殿まは養由基々猿也射ま障

子也寄立たり是れいひの御時よりとソふこと

物々らに由階かゝるゝお月はるゝ閑院ま大内を

うけまされて此ちよせまされありしあらは李將軍

養由々障子有と少法ありるるを四條院の御時

西園寺相國禪門修理とられけなとて頂中將資李

朝臣申起りきててられきりいと興ありあり

竹生嶋祭圖 一巻

倭錦云刑部大輔光信筆

千早行列圖

類聚目錄載之

鎮守府將軍經基朝臣像

一幀

託磨榮賀筆

繪本藏
未詳

長恨歌繪

源氏物語

桐壺

云此云明之れ以詠之長恨哥此

御繪亭子院のうせをうして伊勢母身こよよま

をのへ係やまことこのちも

更科日記云世申子長恨哥とつふみをおうら

書くある事ありとほていこくわうこれ

とえつひよらぬ子内海へおきうり秋葉はねて

七月七日や海契りむ若れけおの申うさ子

あまれ川原うさい片海うれ

拾遺集上雜中宮長恨哥の御屏風子伊勢本も

れいをまぬもあらへゆれりるも浪詠へきて

君成記くらむ

画巧使覧云宇多天皇令好丹青圖繪長恨哥勅

紀貫之伊勢令書其詞

全

二卷

狩野山樂所画

元幹云絹本極彩色結構無比類
尾張一高家藏并

見觀音縁起 一卷

画四品目云画豊後法橋訖為重卿

徳錦云画刑部大輔吉光訖世尊寺経朝以

躬行按子從三位経朝以建治二年二月二十六日薨之
吉光は正安中の人なり是は時世ハあり二弟あり重卿ハ建治二年二月
十九日薨之是後法橋履歴祥有り是観音は南都興福寺
中書提院あり

見文珠像 一幀

同書云吉光筆像上有樹木

智光曼陀羅 一鋪

画二未詳寧樂極樂院所傳此寺亦在元興寺

元亨釋書卷二云釋智光内州人共礼光止元興寺

得智藏三論之深旨礼逝一夕夢至礼所殿麗光

潔智云今見此思廣博嚴飾心眼不及况又如來相

好豈凡慮之所堪乎於是踊陀便奉右手知見掌

中現小淨土嚴飾具足智覺余之圖佛堂淨土堂

自觀之其後吉祥而逝其圖見在元興寺世爭模寫

十訓抄卷四云興福寺乃智光頼光は一雙貴人

一跡子字問て有けり頼光は入りかくるなり

智光其生跡をみむと何うひて夢中子極らく

智光貝生所をみかきゆひて夢中の極原書ノマらク子

まありて頼光の先立く生きた家有様を見たり

内て其やうを繪子かきま家をは智光のまを

らとて世の傳へたり

躬行云元興寺智光曼陀羅超昇寺清海曼荼羅此為麻寺
此二稿糸曼陀羅俗これを和州の三曼陀羅と云ふと云

中尊寺京勝王経繪

倭錦云中尊寺辨天堂景勝王繪藤原秀衡所画

南在奥州
平泉

地藏菩薩像 一幀

倭錦云巨勢金田筆

貫雄云録倉田覺寺藏大幅有り又小幅一幀
住吉家所藏あり

全 一幀

右京権大夫信實朝臣筆 日代義
所藏

全

本朝画史云守持院丞相尊氏公政務之暇好画因其

所画有地藏像自加賛詞於其上

倭錦云足利尊氏公自画賛地藏有洛東若王寺

全

名画拾彙云義詮公嘗画地藏尊像入在京師東山

若王寺

倭錦云宝篋院義詮公書画一筆地藏像京都寺持
院什物

合墨繪像

建礼門院右京大夫集云おもひれこゝく百古の
りありて科紙をまゝとせし経手すしわれあり打
きて文字のみゆかまはゆけをば裏まはれのおし
かくして手はら地を花とまゝいとこゝ記す書す
らありてありし此をあらわしとあり又人めはく
まゝとあれむととまひとるもくらありとあり
いとつよいとありうれしとありとありとありとあり

ふも家ありひきれとて写しおくうからはむの
こちこゝるへさよ

画工便覧云建礼門院右京大夫後男夕雨務死世尊
寺修理大夫行能女哥人好因繪

新行按子分麻子建礼門院右京大夫は世尊寺伊行朝臣女伊経朝
臣の妹行能卿は叔母子て母は冷人大神基政女夕雨務と男は
然るに便覧は母と子を一人とて叔母を子とて何ぞか牡撰
也

地藏縁起

二巻

名画於彙云巨勢光康画地藏尊灵験繪卷其詞兼
好法師也

躬行按倭錦は光康を蔵人永有の男一條帝の正唐中の人とて又
永有をなうよ後有の嵯峨帝の寛元中とて一條子樽倒し

卷之二 應之誤ハ正應の誤もや款文ありハ先康を正申比の人と
也ハ兼好も觀魚元年二月十日於伊賀國田井庄寂を六十八と圖大
子載考りあり此の嘉永二年ハ震火をいぬと記あり
續觀經考考大布地藏冥驗記三卷

全 二卷

倭錦云繪高階隆兼詞世尊寺行房卿

行房ハ修理大夫右中將建武二三年於越前金崎自殺隆兼延
慶中歿人

全 一卷

同書云住吉法眼慶恩詞慈鎮和上

全 一卷

今川一紀政書画一筆

全 五卷

書画筆者未詳

親長御記文明六年三月廿七日云入夜被召御前被讀地藏驗記繪

五卷 男女

全 一卷

書画筆者未定 長井千里藏并

矢田寺地藏ありハ一免て所ハ此地花の冥驗を何の記
也

全

倭錦云繪巨勢有家詞慶運法師

全 矢田寺縁起

名画拾彙云巨勢有康能画嘗繪矢田地尊縁起

新行按子元亨新書滿宋上人傳云矢田寺本名金剛寺在和州と
記せし洛陽の矢田寺と山城名勝志に元綾小波南西洞院東矢田町
子あり今京極東三條此子遷とこ也也

全 壬生寺縁起 六卷

同書云蜷川親當 帶乃丞親俊子 新九門 其髮法名智智縕自画

肖像或山城州壬生寺縁起亦所画云

展覧目六 壬生寺 云縁起繪詞蜷川新右衛門筆繪筆

者不知 非画 工作

全 星光寺縁起 二卷

書画筆者未詳 屋根葺地藏縁起 葺乃内藤家藏

躬行按子親長卿記に云く所地藏壬生西院藏珠院八田星光寺清和
院と載せ文明十四年七月廿四日次員益王記には六地藏屋根葺禪光

云くとありけし此縁起は地藏庵を以て人家の屋根葺よし
記あり

地藏佛感應縁起

書画筆者未詳

地藏菩薩支那の灵験を集め記せり
秘本官庫にあり

地藏堂准紙 一卷

類聚目錄云土佐光信筆 毎錦 同

地獄變御屏風

枕双紙云御佛名此御 当地より名の小屏風より

わざとて宮よりらんせさせあり

御より 御よりかきりあり

古今著聞集卷十云弘高地獄変れ扉風を出さず
は橋の上より様を内へおろして人死さす
鬼より死をうけぬることよれまひ入るみえ
けのをこぼれうらひ死なぬは公らくは秋運命はな
ぬともきしていくはとかくて失まらる

後拾遺集雜地獄のうき書き家のみくさるれ
道難女み泣きりわき家いぬをもあつりありあさ
衣をぬれてかくらむ

金葉集雜地獄の繪は剣の枝は人のほらぬれを
ぬをみてよめは和泉或部あさまのほらぬれを
のたらむまでこはあまれこれぬれぬあつらむ

巨勢系圖云一條院御宇長樂寺地獄画廣高画之
本朝画史云巨勢弘高名技其む為貝平親王所重
曾画地獄変相

地獄画

好古十録云一卷画老長詞の叙連

新行云内寅復地獄繪詞二巻書画實琴自浪花撰来画老長
詞叙連といへる書画ともは妙絶趣友人柏木政矩藏弄り一巻ハ
山門の地獄一巻と星宿天部神等の疫鬼邪神をとりくらし
或をうわむに因ハ段あり其中ハ鐘桶の鬼の眼を抉りぬく
圓ありやまを繪の鐘桶最めはらる又注吉家子因巻別圖の
横本二局あり其一卷はやう古本ありて未老長筆と記され
此繪を教局ありしものよてハ録に載せぬと即て此系
らんにて辨庵陸筆に繪れ傳はりて詞の失ふ向を地獄画とた

うまおし 記はめて記 幸は誤り 二叔蓮建仁二年
七月廿日 宛

千代能双紙 一巻

倭錦云刑部大輔隆相筆

通部

筑摩祭繪 一巻

書画筆者未詳

卷末云文龜元年八月十九日神主紀忌寸朝臣
是長権神主管原朝臣実種下司筑摩周防守源
忠胤之公文朝妻中務大捕大換諸貞右一巻者南
都興福寺龍宮院藏所也今後令寫得之者也兼應
二癸卯正月申院日 押

躬行按此卷尾の連署紀忌寸朝臣源忠胤之大極諸貞右最
辨之難く且正應の二年ハ癸卯トシテ癸卯ト辨出又龍宮
院の名興福寺中ノありを予ら此姑く原本子隨ハ録して
疑ハを缺ク

月次物語繪

明月記 貞永二年三月廿日 云日來撰出物語月次 十月不入源氏

并袂衣 於歌板群他章雖不可然源氏當時中宮 妖所撰夜

寢覺御津濱松心高東宮宜昔左右袖濕朝倉御河

午開留 取替波也 未業露海人荊藻玉藻午趨以十物語

撰每月五金吾清書訖又加一見返之舟繁茂進上云

以取文為興又情於日記十所許撰出同送金吾許紫

日記更級日記 中原大夫書道之自兼明院 其外情於所殘

欲仍令書出之進此画圖又世之經營欲

全 二卷

同書又云此繪如閨者可為未代之珍欲典侍往年幼

少之時令累故齋院之時所給之月次繪二卷 年未所

今度進入宮詞曰彼御筆也幸露殊勝珍重之由上

皇有御章之件繪被書十二款 三月 敏行

二月 清少納言存信御 三月 天曆藤壺 四月 實方

五月 崇式部日記 六月 世平朝臣秋風 七月 後冷泉院

八月 道信朝臣 九月 和泉式部師宮 十月 時雨

十月 家貞少將 十二月 四條大納言 二卷繪也表紙 青砂

軸 水精

躬行云右口古物歌字物所載析出但名画括彙有式子内親王

傳名引明月記 貝文大同十異以不贊

徒然草繪

類聚目錄載之

倭錦云法眼如慶具慶各画之

有教種

貫雄云具慶教種、用大色紙極彩色無双のものあり

土蜘蛛双紙

歌聚目六云繪光顯筆

倭錦云越前守長隆画

横本卷尾云此画、片桐家此所藏、繪は土佐長隆詞

書、右、兼好法師也

躬行拙、長隆、文弘、弘安中の人、兼好は觀應元年六十八寂せり、序法、今、是書も兼好相居土蜘蛛退治の画詞あり

別子神代土蜘蛛の、或画記、一、物二卷あり、原在明い、る、未見之

鶴雙紙

一卷

類聚目錄載之

倭錦云刑部大輔光信筆

追儼圖

画圖品目載之

附喪神記

二卷

一名非情草木成佛

好古小録云付喪神記二卷、詞云陰陽雜記といそく

器物百年、或鍾く化して精霊を得たり、人の心を

誑をこゑを付喪神と号んといへり、是よりして

世俗毎年立春の日に、各家の貝足をもらひ
かして踏次を治癒するも、これを煤拂といふ
是則百とさる一年、坐らぬ法も神の火難
ありとあり、梅子泣不劫縁起、白喪神ヲ祭、
リ和歌ニ百年とせむらぬ、ゆかしの云是ナリ
又云非情草木成佛ニ卷、画僧夢融、詞僧成貝、白喪
神ニ似テ画モ詞モ少シ

類聚目録云白々藻神縁起繪

増鏡云、帝かろと、徳のひまこと、いひ、
かみれ、如うそりも人も、あつらひ、
あつらひ、あつらひ、あつらひ、あつらひ、

古物語類字林云、是を伊勢物語のものとせよ、と

也、さくらぬ、さくらぬ、さくらぬ、さくらぬ、
みゆとつ、歌をもとめて、作をりし、
そのあはれべし

躬行抄の身喪神、非情草木、
白と一物二名也、
さくらぬ、
の別本とさるは、
誤れらん、
世画光信所画のものありと
貫旗のへり記

全 二卷

美濃国岐阜崇福寺藏 在長良川上 標頭云東寺文移

院傳來非情草木成仏

弓尾云左大史十槻宿祢書画 名録 又云真言宗東大

寺傳燈大法師任賢

壺阪寺緣起

類聚目錄載之

繫馬西屏風 二帖

飛彈守帷久口筆

貫雄云此屏風安政五年柳堂被獻林中

全

法錦云栗田口法眼隆光彈正忠廣周各画之

全

越前守光重中務丞光弘左近將監光元等各有

筆蹟

鶴岡八幡宮宝物圖

互部

朝堂院古圖

國朝書目載之

殿門圖

四卷

顯聚目錄云裏松固禪入道撰

春村云余々み海老の本七巻有り宮殿圖と題き古画卷中の殿門を抄出せしものなり

典藥寮明堂圖 一卷

姓氏錄

左章諸蕃

云

和藥使主

ヤマトクスリノオミ出自吳國王淵孫智也

天國排開廣庭天皇謚欽明兩代隨使大伴佐尼サニ以古持内外典藥書明堂圖等有六十四卷佛像一軀

伎樂調度一具等入朝男善那使主天萬豐日天皇謚
孝德御世伏獻牛乳賜姓和藥使主奉度本方書一
百三十卷明堂圖二卷藥白一及伎樂一具今在大寺
也

古事決六卷云施藥院領九條占所明道圖ノ有ヲ見ル人
必目ヲ病ノヨシハ雅忠申置之云

繞古事決一卷云典藥寮明堂圖ハ灵物也雅康寮ノ
御時本寮破レテ弃カキテヨロソノ人ニケリカマウノ宝物今ハ一
ツモノコレモノナシ

天滿宮自画像影

本朝画史云世稱菅神自画像者筆勢不凡威儀
可仰矣其跡稀蓋在于北野東向觀音及洛東高
臺寺又在於撰州上宮社其真蹟無疑者也

躬行云世稱菅公自画像者性ハ在焉皆非當時之衣冠且公在世
謙虛何猥画自相如此多斗可謂誣妄之極矣

全神像 一幀

名画拾彙云後奈良帝在御画設色北野神像極
清爽

全 一幀

辰院目錄誓願寺系云天神影後陽成院宸翰

全

倭錦云東山義政公多画之

全 一幀

刑部大輔吉光所画

今在信州高遠城中
原天海僧正所藏

全 一幀

倭錦云沱磨法眼榮賀筆贊素眼法師

全 雲中影 一幀

同書云画之法眼珠賢讚政家公

春村云ころは政家と何れを何人をも一近衛朝白政家公をりん
まを承正二年六月九日の薨去六十女 此れを珠賢より時代をるる
ゆるし
躬行云珠賢を東大寺繪所日記より向子時代政家公といはるるの
たらしもあらし、あは珠賢より東大寺大佛殿縁起の処に
りし

全 渡宋影

同書云画之伏光補贊尊應准后

躬行云菅神渡宋の事を東又記云渡唐天神ノ事 聖一國師博友
居住ス其後國師の居住跡ニテ名ヲ地ヲ極出シタルニ聖一ト天神トノ
物語著ハケテアリ天神云 和尚ニ仏法ヲ傳授セント云聖一云愚僧ハ経山
寺ニテ法ヲキ我師ハ経山寺ニアリ公亦就我師可聞法ト云天神終ニ渡唐
ニテ無準ニ法ヲ受テ佛ノ良裳ヲ着テ梅花一枝ヲ携来テ聖一ニ相見
テ無準ニ法ヲ受タル由ヲ語ル事自收テ是ヲ書記セリ東福ノ爲極モ此記
セリ又惟肖ノ天神ノ贊云我モ此事不審ナレハ絶海已ニ贊メ置タレ任
其讚之トニハタルカ起原ニテ長親卿の両聖記菅神入宋授衣記また梅
松録にも此事を載せりと其もと夢想子出くいつくし記也

光補廣周の男文明年中の人尊應准后文明三年任座主
雪舟渡宋像贊只為愛梅堪画因经山闡說授衣蓋袖中携一枝去忍
是江南亦所無村庵亟相风流似伯顔江南暮雪梅梅還遠地想可為
其企未必尋僧上经山萬里叟

天満宮縁起

北野社蔵ハ卷 杵根本縁起

通信實朝臣討後京極撰改北野縁起八卷原稿一

卷本社所藏

但原稿原所貼於本卷
裡面今集書一函

倭錦云通信實朝臣北野縁起詞自書

第一卷跋云北野聖曆縁起不慮紛失不知其所在空
送歲月已久于爰目代照世素求于四方得古編縁起八
軸於泉南大寺之大藏中雖然欲償之不容易故謁
縣令石田木作尹請遂鶴望縣令感照世志深切而文
祿五稔秋遂以得令終素願不勝作躍抱以奉備室
前也可謂合浦珠去復還矢嗚呼是亦非神慮威德
之盛乎于時慶長中四曆已交夷則七日北野寺勢無

呂親王記之

第二卷已下記云慶長中四己亥年七夕覺丹親王書之

貫雄云詞書後京極殿之傳一書此とも光明寺殿堂らんと或人
いへ此繪信實朝臣光後一筆よりて為總御の台作りありし中
新行云此詞一筆よりありしとも為總御考あり

全 北野社藏三卷

画刑部大捕光信詞三条西實隆公外題 後拍原帝宸
翰 本社藏

卷尾記云右詞依松梅院梅壽所望漆禿筆有權大
納言實隆繪師刑部大捕光信朝臣

全 北野社藏殘缺二卷

画越前守行光初世尊寺行忠卿白猫残缺
有新画本社藏

顔褰目錄云北野縁起繪行光倭錦
同

展覧目錄云行光筆北野縁起残画
土佐土佐守
所藏

土佐系圖云行光越前守画天満宮縁起真筆一卷至今在家
又傳寫在家

此傳曾展玩集残缺为一卷古色可掬

春村云行光筆と傳へるは三巻の模本あり行光よりぬきけりて
頗可愛ものあり是は之缺本とみえて詞もまじりて
躬行云今亦社に傳わらぬ二局あり土佐家等に藏あり是は實に
本社に也

合 残缺一卷

国朝書目云北野天満宮縁起画所預伊与守隆成

残土佐系圖云隆成伊豫守画北野縁起乙未十一月展

玩清凉殿霽霏圖一枚画力極精圖中有一二妙筆

躬行云亦社藏残缺一卷画行光着色詞筆者不知之其係何の
行光二局の本と曰くは是則隆成筆歟又云伊豫守隆成ハ土佐系圖
子ハ越前守光顯の子とあり然ク之本朝画史隆親の師子主殿
頭隆統子晩年任中智女神姓名隆成と記し之は何より此より

合 北野社藏三卷

画大迫将監光起詞公卿合作亦社藏

合 北野社藏二卷

画板屋挂意詞諸侯合作号为天満宮畧傳松平越中
守勸進

本社藏

躬行云好古十録曰北野天満宮繪詞四卷隆成及行光光信各此
寫ノ今皆傳ハラス隆成ノ本一兼行光ノ真蹟三兼光信模本一卷
ヲミルノミかく記し之れと方今亦社に傳る處信實光信の全卷
二種行光の残缺一卷未詳残缺一卷等新縁起の外空藏セリ

全 北野社藏一鋪

北野縁起曼陀羅刑部大補光信筆本社藏

全 北野社三卷

新編錄倉志 二卷 云在柄天神縁起三卷画ハ土佐筆詞
書ハ藤原行能也當社縁起ニテハナシ世官差相一代事跡

ヲ書

好古小録云画行長詞行平卿余曾ヲ模本ヲ以テ原
本ハ他社ノ珍藏トナリテ本社ニ模本モナシ

倭錦云繪行長詞行能卿

卷後云天滿天神利生利物菩薩増之應現権化之

方便鐸入幽玄筆難靚鑊唯旧談之所世論之不
忘摸之丹青影其奇特勒成一部相三軸聊依有
中丹之緒願新願新念以後素之画切也一奉納宝殿
之後再莫出瑞籬之外信心之至廟以玉定照感應之
餘宿望盡成于時宝曆元應曆維之年其律大呂
朔之朝而已右近将監行長

春村云此段文宝曆祝祚あり屠維は巳の異名有れば元應元年
と云義也其律大呂を十二月乃吳名朔之朝而已文の拙手よま
まを雨巴の誤りそれと長曆不台考ふべし
上卷を菅公の御傳中卷ハ公の崇ありとて天災ありしこと贈
官位の事下卷も北野社建立の時より其験奇瑞の事を記す
文中ハ建長の年と云ハ語あり
躬行抄ニ程三位行能卿ハ仁治元年十一月廿六日六十二歳瓦行
長ハ元應の年也此段文ハ何ぞ行能卿を以テテ後云々

唐令(一)し十録子載(行尹卿八貞和六年正月十四日薨せられ
きれハ時代をさし多し幸らむ但行長を建仁中人といふ説もあれと此
元應の証文あれは誤ならん此縁起字を鎌倉八幡宮別當所
ありと實推しへりな

合 大宰府社藏十二鋪

柙庵隨筆云大宰府縁起十二幅の懸物あり
北野在柙と大に異あり

合 道明寺藏 三卷

画國品目云道明寺天神縁起書画三好丹後守房長
卷後記云維時慶長十又四孟夏上旬是言田之領主源
朝臣三好丹後守房長傳兼築之前州大宰府天満
宮神席有古遷之縁起三局書画寫之謹敬奉寄

附河州志紀郡道明寺大威徳天神之社頭平專
祈國土無為家内安全武運彌久子孫益榮至祝
至禱無災無難須冀火盜潛消財產豐饒者必矣
慶長十四年四月廿五日源朝臣三好丹後守房長 押

合 同藏新縁記三卷

同書云道明寺繪詞画三卷從三位延致 号大東春日社神官
中卷六條中納言有々藤卿下卷大藏少輔光芳
詞上卷一葉院宮尊那親王烏丸大納言光榮卿高辻
宰相總長卿中卷桑原式部権大輔長義卿東坊
城待從長誠冷泉中納言為久卿高辻待從冬長

壬生中将俊平朝臣芝山兵部大捕季憲朝臣風早
三位實積卿唐榜大學頭在廉卿下卷五條大藏卿
為範卿六條前中納言有藤卿桑原侍從適長唐橋
侍從在秀庭田中納言重孝卿青蓮院宮尊祐親
王外題宝鏡寺官理豐内親王

躬行云道明寺は河内國志紀郡道明寺村あり菅公の叔母格壽尼公
乃居所なりしゆ一子元僧住持なり明治惟新としめ寺を山下に遷し
て之を別社更土師神社と名けり菅祠官をおけり土師此地
の御名あり又云慶長縁起乃奥書乃外載ハ亦所除光悦の書ありハ
合 法太社藏三卷

倭錦云画芝法眼觀深訂六波羅西坊阿闍梨在河内國法太社

每卷末記云吳言田遠江沙彌金寶押又匣裡書云河

内國十七ヶ所内大庭庄筆者六波羅西坊少納言奈良

觀深芝法眼之筆文安三年丙寅十一月五日三嶋太郎左

衛門入道願主本邊妙

躬行云法太菅社信濃守永井高政所創立也當時此地係其采地
まきまき河内國十七ヶ所とありは曾て聞く高政深く菅神を
仰く故に當國南辺尚政領内の神社帳内の旧社といへとも是
菅神成祀多し其數十七社及へ依るのありん

合 松ヶ崎社藏大卷

倭錦云周防国松ヶ崎天神縁起詳定

跋文云此御繪有梓見志類者止參詣於當社梓殿
可令開之雖為權門勢家命更不可出社壇若令違犯

此旨輩者可羅蒙大政威德天之神四討於梓見之仁身也仍誓文如件應長元年辛潤六月日御膳所大法師隆真宮司大法師實尊社務法眼和尚道澄

貫雄云此卷画体を詳し左依り刑部大補吉芝の筆跡あり

全

残缺

法錦云天神縁起豊前守邦隆筆

全

伊豆山藏

類裏目錄云天滿宮縁起繪詞光明峯寺閑白

伊豆山藏

定家御像

一幀

法錦云画信實朝臣色紙歌為家御

展覧目錄云信實朝臣筆定家御像冷泉家所傳

全

一幀

本朝画史云慈照院殿諱義政画藤原定家之像自加贊詞于其上持杖也

天寿圍曼陀羅

一鋪

聖德法皇帝說云右在法隆寺鋪帳二張縫着龜首上其銘云斯歸斯麻宮治天下天皇云歲在辛巳十月廿日癸酉日ニフヘ孔部ハナ間人マ母公崩明年二月廿二日夜半太子崩于時多至波奈大女郎ナホイラン悲哀嘆息日畏天白玉前ナケチカナシテマラシ曰云我大王所告世間虛假唯佛是真玩味其法謂

謂我大王應生於天壽國之中而彼國之刑眼所難者
稀因圖像欲觀大王徃生之狀天皇聞之悽然告之曰有
一我子所啓誠以為然勅諸妾等造鋪帳二張畫者
東漢末賢高麗加西溢又漢奴加已利令者掠部系
久麻

右鋪帳推古御代所製片々辟裂僅存數片于本寺

傳教大師像 一幀

倭錦云畫巨勢公忠顯字小野道風朝臣

轉害會屏風

好古小錄云轉害會圖六曲屏一曲畫光興未知是非

國朝書目云天明十四年轉害會圖一卷轉害會六

曲屏風

名畫拾彙云光興相傳土佐家祖然画系不載矣無

知其詳轉害會屏風其所筆云

画國品類云轉害會六曲屏一坐粉本一卷

但羣書類從續編第六十四收轉害會記一卷

天狗雙紙 五卷

倭錦云画越前守行光訂東大寺興福寺 二卷

後光嚴院宸翰叡山碓碯卷一青蓮院遵道親王高野

東寺卷二條尾明卿三井寺卷一世尊寺行尹有尊純親王書續云

行光延文頃の人地下傳後光嚴院文和の共主應安七正北九山明導道
親王文明四年任座主後伏見中土皇子二條為明卿正二位權中納言貞治三十
九年薨從三位行尹卿貞和六正十四薨經尹卿四男

全 一卷

同書云画法眼永春訂二條為重卿

大夫法眼永春應永頃為重卿至治二年二月十五日薨

豆部

舍人親王像 一幀

大藏卿筆 未詳

伴大納言繪詞 三卷 一名應天門繪詞

好古小錄云三卷画者姓名闕画力精絶事二古ヲ

徴スベシ首卷詞逸ス

類從目錄云伴大納言繪小濱酒井家人武久某藏

詞參議雅經卿

倭錦云画刑部大輔光長詞參議雅經卿

天覽始末記云此画詞寛政初年以久我内府通明公被

召入天覽四年酉辰副文書一通被還下其文云右
造内裡之勒秘府之画圖者勿論諸家傳來之旧画偏
被召之雖有種類許多横画或屏畧不足據信處裏松
入道周禪言上酒井修理大夫漢從所藏之古画為分明
由嘗傳聞旨依之酒井家有由緒可被召進之由被蒙
仰乃速被備天覽之處画品殊絶雖數百年無欠損古時
之制作桀然可考也仍下画所可被新画之處元來秘藏
雖不出画外不慮之内命不堪喜懼矣覽之旨被言上
之間則被仰干近臣久世宰相公督之暇令模画之精密細
画施工不容易已向樹星霜卒其二固返給昇宇内罕
物不敢愛留永愿 天覽睿感不斜為神妙云旨脚
沙汰候彌可為秘賞之由且令永傳贖候也四月廿六日
實種 今出川大納言
已下四名連署
久我殿
躬行云此卷画圖品類子武久平藏所傳と載されと天覽始末記に
武久庄の傳目扶所藏と記あり柳世物と美男右の室徳天門を燒く
其罪を信大居士の傳あり 又かか真一傳の模本と刻本序に松
遺物法第十の載る處とを校を依り訓大口の畧也但画卷を卷首よりたの
おとすはあやまちをゆるるしあやまらまての初うけたり又云筆
者雅経には長よりも後輩より一時代をりまし其よりは
年中行事画卷の然りつる也し

合 一巻

看聞御記 嘉吉元年
二月廿七日 云伴大納言繪一巻金富筆 全文在嘉吉
繪刻案

時秋繪詞 一巻

画図目云画光長詞為家卿 柳庵隨筆

元幹云画信實朝臣詞為家卿也光長ありは忠信右多の尹詳の愛
玩をいへば娘路の酒井彦祖望して新花をいへば岸書額從中書り十
三子此詞はゆいも彼模本よりして新模あり
躬行三光長は兼出候の人為家卿は建治元年九月一日卒九十五歳光長
より後輩あり信實朝臣の兼之中の人為家卿は長壽の人ありは年唐
をういひありし

又云此是松山のゆりは若原集をいへばあよくれ此若らみへて
みる時秋とより然ゆは時秋を康和二年に生じて永保寛治東証の時
未生で前あり源義光の時秋、祖又時光よりありて是うらの物
語は時秋の父時元をいへば時秋といへばやよりさふより一証後
守豊多父秋樂新神任鳳王の兼記を引証してはもらうと辨へ
記さう天保のまらうとありしは時元とせの忌辰に記さる
をり女秋の男信房守陽母大曲相傳さふ人、此う記、詩奇をこも
とて者妻より下り来て秋といへば此勅文をおお寄り記しは此物語
を時秋ありし、時元ありといへば續教訓抄巻の十一段より
時元早く親を喪ひて秘曲を極め此刑部並り義光の記さる

殊原の曲詞を習ふとソ登といひまゝ大食詞入詞を傳へる義光の
征伐のまゝの東よ勤く時元地いへば追候の詞は並は義光の
して松林の落をいへば楯をいへば入詞を授くとつゆあり
てあふゆら山とありしうら山といへばさつひされとさへてを字の時
秋物語におあり、これを是もまことしうられ是はいうまこと
しよは同書日表大曲の詞はよくし、秘曲をいへば曲あり時元は
親の時元をおくれて時元はなりしはなりしはなりしはなりし
是といひありしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしは
りてぞ教へしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしは
ありしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしは
秘曲を傳へるありしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしは
かろふといへばなりしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしは
下野國のありしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしは
ては入詞を授けしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしは
事ゆらありしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしは
りまき文九物語のくまらうは唐竹相傳しはなりしはなりしはなりしは
自愛してやまは年數ありて門中刑部並り義光の傳へりまき
句をいへばなりしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしは
徑ありしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしはなりしは
重て相謂ていへば所傳の名管ありしはなりしはなりしはなりしはなりしは

いひれむ答く暫く樂府にたうん養ふ天宗をまきくは
ありて得むと時忠外に辨しうちにあさむをとりて若めと是もま
まの巻に記されは時忠文九よりかへつむとて多連取らうては
行の海ありけりけり相模國足うら山まては道もあまらうま
は海くのあまは此うを丸や本設ありむ物をもも文札讀まは
兵衛尉義光は望のゆえに宗匠にて西京の時文に入詞をへて今
世の惠を片きちるるといふもみえをうらうらくは此う海
るの時秋のいあらは時元もあらは上のうまられとらむをとり
まへてまやくわらうもまをな作らむのうまらうまをあら
へて文札讀ま文札房隆同文永中の作あり

豊玉姫物語

三卷

法眼如慶筆

東大寺正倉院宝物圖

七卷

好古小録云余見ル所三種アリ一ハ普通本一ハ琴及象
牙等ノ圖アル本一ハ都維那祐想ノ模本

元韓云天保七年本院開封の次新圖五卷字製を精好也然もとも或
人訪前百年前所模の圖を又依り今等らさ依り此のあり可嘆

躬行云余明治五年に未本院の開封に遇い宝器を親しむるに
治十年の度も共子に開き庫中の宝玩天平勝宝献物帳曝涼目録
出納簿等に檢ふに現存を概十の三四に及むるに依り大小玉真
蹟の卷子義之の世巻の法書改陽詢の真跡屏風等その景影をこ
存せしむるの點からをといへどもある長櫃一百合あり悉く画を
なすあり況天平以来の文書卷子とあるもの二百餘の巻あり明治
九年有勅造長櫃一百合

又云本院は文庫弘十八間深五間東に向ひて三戸を設くを三倉と
も呼東大寺読要録宝物篇及三編修行樂師院実延の三倉開封記を
み依り三戸は北中の西戸は素より勅封あれとも南の一戸は寺家の
公物を藏めて寺務に對し三編其事に關しは編書とともよ
べり天平勝宝の歲正月廿一日乃東寺司の記文に双倉と識せしは
其はしめは双倉なりしもや又天正二年甲戌三月廿九年預五師
淨実の三倉開封日記云三倉倉の内北中ト倉ハ勅封ヲ付テ鐸鑑ハ京都
勅使御隨身アリ云々南倉ハ當寺ノ別當ノ封ヲ付テ三編所出納スル
故ニ鐸封倉ト云也則今度モ勅封ハ中ト北ト二ツ付ラレテ南倉ハ寺務封
ヲ付畢云々但鐸鑑其後寺務ノ預トナル云々とあるは明のあり然し
を元録六年五月十六日開封乃時より南を併せて三戸とも勅封

とは成峯依有り其中へも知らずなまより御物寺物混淆して美翁
かく成子等々假令は待樂の假面及調度許多の幢幡宝蓋帷幕此属ひ
華籠ホの佛具まゝ布衣雜色也應永の年号あかしのありなと寺物ありし
を論なり其他もよくかむうちは大方い志られぬへしあてをとは北倉
を止しれりしと今は南を上として専ら貴重のものを蔵の中
へ是日次交北は大成を依破損のうははそこちこれま依展風の木掃きき
ハ大味古長櫃ちと城あり入事り此等えりち死事あり後考の
まめり記を東大寺蓮乘院留國法印元禄六年五月正倉院開封記云
建久四年癸丑八月十五日此年有御倉修葺之間移置宝物於綱封倉
三倉之外別有繩封倉以別留印封之三經書入之故名中頃此倉朽壞
故以三御倉之南代之三倉元中南北共有勅封此後中北為勅封南倉
為綱封といふもみへきり全記文云元禄六年五月云々次修行南中北
三御倉鎖錠暈歸假屋次修行到勅使之假屋請取御封倉中北二御倉
之錠又到別當之假屋請取御封倉南倉之錠り歸假屋云々とあ
は此時も南は勅封のあらは三倉勅封とありしは天保四年よりあ
るへし

躬行云日記に宝物百五十五櫃とみへきりしと其うち五十餘の櫃と
もは莖埃と名付けて幢幡帷幕等乃夥し破損破より舞樂装
束の類あら申依破損のものは修繕をさるるなく悉くおせありし城
明治十年の二月南都修行堂とさおは此宝玩とも獻覽ありて
其莖埃ともを悉くうちあけ櫻わけて北録櫃とありし真の
莖埃をとも再長櫃ををりめ封しおけりされは此百五十櫃録のりち
宝器ハ百櫃のりちおけり飾類從七百九十五有東大寺勅
封藏開檢目錄一卷

全藏琵琶

元禄六年正倉院開封記に三綱修行藥師院祐想法橋とみ
お

全

捍披塗土朱上画着色山水胡人田獵圖槽紫檀至覆手
樽手海老尾全身以設色象牙及螺鈿玳瑁等鏤花鳥
檀以瑤瑁螺鈿山嵌華藻小禽

全

全
捍按画鷹搏水禽圖槽紫檀素文

捍按画水上遊禽圖槽素文

全
五絃琵琶

捍按螺鈿出嵌胡人駕橐駝彈琵琶之圖槽紫檀以螺鈿玳瑁鑲花卉小禽

瑁鑲花卉小禽

全
玩咸

捍按画子女四人偃坐彈玩咸之圖槽紫檀以螺鈿出嵌

瑁鑲雙鳥

新所云此婦女四人各眉間上二小円点を画し其所爲をいふは按子
正倉院中今假子仙女樹石屏風と名くこの圖その女子またおかし

眉間及口吻二小円点を画けり記して候後考

全

捍按画三人圍碁之槽文

此子五絃琵琶を裁を依り玩咸力やうく其属いあるは
あは和琴新羅琴今泥もて花卉を画けはあはと異し

全
二枚

一枚紅象牙彫花鳥文一枚木以金銀泥画花卉

按子此槽形よりして且薄弱あり琵琶子用る子堪へん

東大寺境界布圖 一鋪

藏于本寺長九尺濶七尺以布三幅合縫造之

布各二尺四寸曲尺

画境内山林堂塔記云東大寺圖依此圖定山堰但三

笠山不入此堺天平勝宝八歳六月九日定堺乃寺領也

大僧都良弁 左十辨位五位下少野朝臣田守汝部大輔正五位下市原王造寺司正五位上依宿祢守毛人犬

倭國外使并位下播美朝臣良弁人等連署

東大寺戒壇院扉繪 一卷

託云天平勝宝七年九月三日真人元開筆 高山寺

躬行云白描佛像乃画稿なり甚画力あり

全戒壇繪詞 一卷或云天狗草紙

画工姓名不傳

全卷後云右繪之詞 光嚴院宸筆 無疑貼者也推大

納言光廣謹記之

躬行云倭錦子天狗双紙五卷の内東大寺の巻繪行光詞後光嚴院宸翰とも依此の即是なり

東大寺錄起 三卷一名執金剛神錄起

好古小録云國中聖武帝行幸ノ函アリ聊考ニ備フ

ハニ其餘見ルニタラス

展覧目錄 東大寺 云執金剛神錄起三卷繪土依詞一條

大閣 俗查不足着

倭錦云執金剛神錄起画中誓亟光弘詞一條兼良公

卷尾云天和三年修補繪土依將監詞一條大閣

此錄起良弁僧却生涯此事を記セリ

全大佛殿錄起 三卷

本朝画史云芝法眼名琳賢南都東大寺之縁起画者
琳之所画

画巧便寛云芝琳者南都定磨氏之後裔也傳家法
精于佛像繪四天王像於長谷觀音堂亦有東大寺縁
起五卷三卷琳画之後叙法眼慶長年間歟

展覧目錄 東大寺 云大仏殿縁起三卷上巻後奈良院

衣鞠中巻青蓮院尊鎮法親王下巻西室公順僧正

繪芝法眼琳賢 海錦曰

巻後記云上巻記當今衣筆繪芝法眼琳賢中巻

記青蓮院二品尊鎮親王繪同前下巻記西室公

順繪同前

東大寺縁起古来所記為廿卷而依事繁多見者

閣之間者後之仍鈔至要編為上中下三卷存於上

巻記者忝被添衣鞠論披閱之輩葦葦修造之志者

足矣干時天文五年月日勸進沙門祐全

躬行云歌文抄琳賢時代を論し云多間院日記署南都
此繪所侍從の子とて天正十六年子十三四のらみゆれ慶長
の初此人と云ふへとあると天文四年六月十八日東大寺繪
所日記琳賢師トフナカ丸と東大寺西繪所也東大寺縁起
大佛三巻コレアリ二巻琳賢沙汰一巻藤藤沙汰と記且本巻
祐全々天文五年の奥書も堂々あれむ琳賢天文中の人あり
ありと云ふへ但便覧琳賢を琳玄と作り古縁起子五巻と
慶長年間死をあと筆にまらせし記は例の杜撰然るに堂々
続類縁七巻九巻三巻記を成す也
春日社古繪馬藁書三枚奉撰繪馬筆者琳賢天文五年六月天文

二十一年左方繪所吐田琳田天文二十二年六月筆者并

全大佛繪傳 二鋪

画二姓名不傳 南都眉間寺所傳

貫雄云此画筆者隆信朝臣の家へ當時を
みゆは不足なり

全二月堂縁起 二卷

寺僧云繪亮順筆

國朝書目云東大寺二月堂縁起 一卷

展覧目錄 東大寺條 云二月堂縁起二卷書画筆者不

知 廣行云俗画不足者

跋文云維天文五年冬東大寺師法印英訓寺領の

寺の美濃園を下向すに園中心ををまけま

くそふそく此寺跡ありしうはつそき帰駕を促し

南都のむらゑに寺田とてふ跡に怨賊圍繞して

若物盡く奪取せしむ別一村成敗を加へられ衆

議を以て名字を二月堂にあらわれ然悔乙年十五

年丙午のれ寺田に黎民咸即起慈心して燈明料

あまをもきせ二月堂會中に参りて申やく名字

をこめられし疾疫流行し命を失ひ身成

滅もその教をうらむ慚愧懺悔し今より東大

寺此外謀をいせまへまよし捨邪歸正せしむ

衆中奇灵の思ひを以て教免せられたる神助冥
討未代といへとも何れあはれのうれ

躬行云古縁起を享保中二堂堂上の時とて焼失せりて
焼餘の一匠躬行手向山八幡宮の社司上司延鑑より相傳して
弄弄せり上下焦燥おのとも画を全し二はう此亮順の
筆よりやむ能画有り字の縁起て其後出来しあり但流類
七巻九十六有二月堂縁起一巻

全知足院佛舎籠繪

画図品目云地藏堂扉金屋筆

貫輝云知足院地藏公厨所画前雙扉不動毘沙門右九之郎地獄
餓鬼畜生修羅但皆面人間天道二國燒失り巨勢弘高所画矣
未迎寺十界國河伯仲乃金屋筆者誤矣

東寺縁起繪詞 一巻

画土佐光信詞筆者未詳

巻後云此東寺縁起一軸者土佐將監光信所画也筆

精墨妙誰敢聽哉於是漫書一言於紙末云寛文

八年十月下漸宮内卿法印探幽

躬行云此馬法錦所載越前守行光筆天狗草紙五巻之内東寺
高第二馬詞二條為明卿有り光信筆と云云此ハ語ある
此巻おより延暦寺巻官物と有りて近時攝物館より聞り

東証傳縁起 五巻 一名唐招提寺縁起

本朝画史云画工六兵衛剃髮稱蓮行曾鎌倉貴
族使蓮行画鑑真和尚之行状施於沙門忍性于時
永仁六年戊戌八月也今在和州招提寺宝庫為筆法

出於宅間稍優柔而我國之風韻亦有勝於漢土者
好古小錄云蒼鷹司殿驛卷紙奉施入唐招提寺永仁
六年戊戌八月日極樂律寺住持沙門忍性記按此
卷及吉備公入唐繪高山寺繪詞類畧其始末考
べしト雖圖スル処多ク異邦ノ事ニ衣服器用ニ至リテハ画
工ノ私意ニ出ル故ニ考古ノ益少シ

辰関目錄唐招提寺云画古土沈詞集書善画也

道の章同云繪録起刻書光明峯寺殿世尊寺行忠

朝臣あとの筆なりりてみゆ

卷標裏書云奉施入永仁六年戊戌八月日極樂律寺

住持沙門忍性

奥書云画工六兵衛入道蓮行筆師嶋田氏部大夫行兼

美作前司宜方足利伊豫守後室大炊助入道忍性明治十二年

年三月以原
本記入之

東福寺涅槃像 一鋪

本朝画史云明兆在東福寺所作釈迦涅槃圖廣二丈
四尺縱五丈右方有記應永戊子十五年六月日破草
鞋明兆因業行年五十七左邊記云亨祿三載庚寅臘
月十一日山中軍勢乱入什物散失之後涅槃草大田庵宗古
藏主捨財求之寄附

亦有白衣觀音像明北所画大過于此

全法堂画

同書山樂傳云豐公修營東福寺御堂天井有僧明北画

龍嘗逢雷雨而損公使永德補之画雲未画龍而永

德罹病危急乃授其筆本於光賴以補成明北所画其

紙壞光賴去其紙施粉於板上龍頭二丈餘身長十

八丈教日終其切光賴晚

躬行云此二國皇朝臣画之魁不有過之者故保識于此

杻尾縁起

一卷或云高山寺繪記

画圖品目載之

鏡屏書類從第七百八十八有高山寺縁起一卷

東照宮縁起

五卷

倭錦云画法眼如慶討宮門跋公卿合作野州日光山武

州仙波記州和歌山備前室山四所神席各置一部

賈惟云御祭事圖一卷各制之依天海僧正日授如慶新画云

全

五卷

画狩野守信刻筆者不知

刻最末云神を故よりて威をより人も信を以て得

を益は故東照大権現因位乃德を縁起し圖し未代に

傳、道俗是を聞し々尊重れかしを考するは灵験

まのく 掲あらむ 肆の悉も 狩野守信蒙御下知
信敬の抽丹誠朝暮数年退慢れく令書切故に法眼
繪所を下さぬ是以御神徳也

鳥羽造道及朱雀川図 一鋪

好古小録云年号不見疑ハ五百年許所画ナラシ

闘雞図

画工未詳無詞書

微細
図也

或云類聚目六所載の神前闘雞図曰之と是れをナラシ

上虎丸琵琶

捲面画竹虎華李槽内有銘右馬助十藤原孝時巻

也 三條家所傳

燈籠諸図 一巻

画図品類載之奥書云天明二年壬寅夏五月模写
年并宗珠瑞成

奈部

另太刀契

内侍所聖劔圖

中右記内侍所燒已條云寬治八年十一月二日云節刀十柄中

有美駿 劔樣切鋒八柄一柄長二尺五寸五分方龍形總見折界也左鋒雲龍總殘鋒二寸師刀柄

并五寸四分目 一柄長二尺二寸半有銘文云左青龍右白虎此上文損不見貫之穴二也中央間有此字許也後玄此字以下燒損不見左青

龍形總從膠下許見其上虎尾形總在柄水六寸穴一有 以上三柄若是聖劔歟殘六

柄長二尺四寸但柄水或六寸或四寸等 鯨尾二柄一柄長二尺四寸一柄

相如也劔并冒不見 以上十柄皆以燒損 下畧 裏書云伴聖

劔二柄圖推中將顯實相臣許持也波家相傳之明經

博士允亮所抄政事要略百廿卷中詳見也為一本

書不在他家而件卽刀沙汰卷隨身直廬與下官共放
刃之處大略合所見之古釵二柄相叶也亦有與件書中
天德內裡燒亡時陰陽師晴明奉勅命作符之由所見
也而安倍泰長為波末葉此吳釵之圖依命所獻殿下
也彼中將因與泰長圖皆以相叶是有指南也長德三
年五月廿四日藏人信經私記云遣召主計助安倍晴
明尋問宜陽殿御釵筆事中云件御釵廿四柄也知天
德內裏燒亡之日皆悉燒損晴明為天文得業生之時
奉宣旨進勸文所令作之廿四柄之內二腰名雲釵一
腰破敵一腰守謀但件釵有鑄之儀次并名又曰鑄

十二神日月五星之時也而燒損之後不見其文仍所
獻勸文也御釵樣乃木形也件破敵是至大將軍之時
所給節刀也一腰是名守護候御所是也天德以後度之
燒亡後未被作件二腰亦是百濟國所獻云今日所造
釵身六柄之中雲釵二腰之實有之實件吳日等國家
大宝也必可被作儲者天德奉勅以備前國撰獻鍛冶
日根安生令燒其實之高雄山也者六月庚申日必可
作此釵者其故仰化酒令史安倍宗生等也今年八月
廿六日是庚申日也然而已為九月節又日次不宜明年七
八月庚申日可被始作歟後日從治部卿

借得之所記置也

建曆御記云太刀匡房記顯曰鉞釵三尺或二尺拵十其中

一釵肖有銘北斗左青龍右白虎其外不見是目百濟所

被渡二釵之一故日月護身之釵三公鬪戰之釵故

直幹申文繪詞 一卷

類聚目錄云光顯筆

倭錦云函越前守光顯詞慶運法師

十訓抄卷中云天曆の御宇橘直幹、氏部大輔、望む

申文をば自書く、小野道風、清書させり、帝は

御さうれ、依人異事、雖似偏頗、代天而授官、誠

懸運命者と述懐の詞を、記をよみ、たふふりて、たふふ

し、よくあし、うけり人、是、成忠を、おもふ、は、と、

その、うち、内裡、焼、亡、候、中、の、院、に、行、幸、あり、代、

の、御、渡、物、御、倚、子、時、間、其、象、鈴、麻、目、も、ち、ま、り、

ち、海、を、御、ら、ん、く、直、幹、を、申、入、は、と、り、出、し、ま、り、

や、と、御、尋、あ、り、ま、れ、む、時、の、人、い、こ、し、事、を、そ、こ、

ろ、こ、し、ま、り、

躬行云橘直幹氏部大輔の廟を兼任せしと諸状載して
本朝文粹卷六にあり不贅于此

奈興竹物語 一卷 一名鳴門中將物語

好古小録云大正与竹草子一卷画者姓名不傳模本

異同アリ予カ所蔵古本ニ誤寫ナシ

画図品類云繪之所預隆能詞正二位為家卿讚州白峰藏

倭錦云奈真竹物語畫之所預行廣

躬所云世物語は著聞集卷ハ二後醍醐帝大井の山荘の御鞠の極多
あひまうと後醍醐帝の御方をおられらちけさしわひくや
わくあり清ひわく相治や女まうともなううはせむあやの
一よふたよれあまれゆをほとりふ歌の心よてあや作のと御
五多聞えりせきまどあや作相治も又妻をうらめくとも
所曾よく鳴川中將相治ともいへはあり世詞群書類從男
二も入まうはく品類世詞為宗卿繪隆能とあれとある家
ハ後宇多帝此建法元年薨せられき隆能ハ左衛門佐清細男
堀川鳥羽の初の人よてうれ後醍醐の御代よりハ百とさあ
まうて古うかへ多れはる跡も書画の時代も餘く相違きり
或云後深草帝御案附可疑

全 一卷

倭錦云画法眼如慶詞飛鳥井雅章卿

無名物語二卷

書画飛鳥井大納言雅親卿女一位而一筆黒坂堀家藏

古物諸類字あり世世のがまうは時の大臣の姫君

ま、ぬの夢よ誰ともしられぬ上臈また老くいひい

てその人れられぬを慕ひ石上ままう徳く左大将

と聞申家人のおちまをれゆめ徳りさら海くを

此のまけまより姫君むぬの物れて濃多此

ま、ま身をまけま大將乃舟ままをけられ

てす清の遊家よりいり相まう一住而此

自作自筆の此のあらむ文章繪極も頗殊勝れを
名目の外題おどれむ姑く名れし此のうきり
名はく

業平朝臣像

画二便寛云後光明帝好画甚有異趣因業
平之像束带置冠於右手执筆题御製猶上
かくも画らるる姿をいふを写すとも月は死
をえしもうねは賜中院通紙
業平朝臣像在大和國添上郡不退寺

長歌草手繪

一卷

好古小録云一卷画光正筆手一種ナリ

土佐系圖云光正

正中年中人從五位下越前守

画長歌草手

倭錦云源氏草手繪双光正筆

画國品目云光信筆

泣不動縁起

二卷

一名證空繪詞

好古小録云二卷画光茂世卷中安倍晴明舟喪神

ヲ染リテ僧智空ノ病ヲ證空ニ移メ智空病治スル

事アリ淨華院所傳泣不動縁起琢磨所寫ト云

余不觀之

國朝書目云證空画詞傳

刑部大輔光茂

二卷

土佐系圖云光茂右近將監五位下 画僧證空繪詞傳二卷

躬行拙子長明發心集云證空師の存かの本尊は傳せし後
白河院におはす。まゝに去やうちう院のあり不劫と有りまは
是あり時目より涙をあり。まはう字とちまよさやう子み延みへり
まはとそ又曾我物語卷七子三井寺画像の注不動の由来知空證
空の事もみえまゝ

南圓堂壁祖師像

山槐記安元三年九月十日云抑南圓堂所奉圖之大師等影

消失之間皆塗新壁繆所殘者不塗之令塗圖外云

那智山水屏風

倭錦云土佐權守経隆画

南川琵琶

樓面画流水槽華欄 尾州家藏

浪連古圖 五枚

画圖品目載之

尔部

如意輪寺八神像

吉野如意輪寺藏王権現

謂之誠藏王傳
為僧日藏所造

合龍内所画

吉野山中八社之神像画二姓名不傳色紙形傳

為後醍醐天皇宸翰

菅神影最古雅也贊云凡月澄心
文通祖火雷宿念法尊

按元亨新書日藏寬和元年記

仁和寺肖像

七幀

花園左府有仁公藤原長房卿修理大夫顯季卿

左京大夫顯輔卿藤原清輔朝臣大宰大貳重家

大藏卿有宗朝臣等像画工未詳

廿四孝画訂

一卷

倭錦云画法眼如慶訂李吟法印

躬行云東見記子二十四孝は元朝郭居業所作也四聖山云皆奇異考也是可居兒女語之云と見之也

女房廿六歌德

大近將監光起筆

土井大炊頭所藏

日課觀音像

名画拾彙云平政子北條時政之女源頼朝卿室家御薨後為尼法名如實稱二^位尼亦作圓画鎌倉壽

福寺釋迦像

以竹構成以紙粘造稱羅尺迦宋人陳和卿二作二

年世久遠

頗為壞損元禄四年欲修補之招而看之中有觀

音画像廿許片每紙書日蓋日課所画也當時村野常信定為平氏画詳見大徳寺天倫和尚所記今觀其模本筆法婉暢与書蹟同轍村野氏之定者不誤

日蓮上人註画讚

五卷

同書云窪田紗泰以繪為業因日蓮上人註画讚五卷跋云天文五年申初秋於若州長源寺書之画工窪田藤右衛門尉紗泰勸也後師安立院大都日政今在京師本因寺

画圖品目同之押庵臨筆作窪田藤右衛門尉紗泰

日蓮上人像

一頓

倭錦云春日行秀画

身延山塔中
什物

若一王子社縁起

三卷

画狩野尚信討道春法印書鈴木某

在武藏国豊嶋
郡王子村

二河白道图展風

本朝画史云惠心院僧都諱源信姓卜氏和州人洛東

新里谷有二河日道图展風盖上古风致也

廿四合春画 一卷

土佐入道久羽五画 無詞書

似繪

古今著聞集 卷十 云後堀川院御時子有繪を所好

ありけは北面下臈御隨身右との影を左系権大

夫信実朝臣城めしてかしられは家子大夫尉

永親それやう成もしてなるを家白隠おて

北面の候ひは家めして出されは家時太刀をとり

てま起て余り多しは家いこしはあはしは久侍り

けは

吾妻鏡

仁治二年
十一月廿七日

云當將軍家御時關東射手似繪

可被圖之由有其法今日以評定之先註其人教

横溝六郎山内九衛門次郎等可為其人教云

水蛙眼目云多量巖峨乃山莊此障子上古日來款

仙百人乃以繪之但最勝光院障子似繪
部子あり
凡雅集竟宴似繪等本

文德實錄仁壽三年散位從五位下百濟相臣河成

卒河成本姓余後改百濟云以善圖画屢被召見

之昔在宮中令或人喚後者或人辭以未見顔容

河成即取一紙圖其形体或人遂驗得其機妙類

如此今之言画者咸取則焉卒時年七十二

稱部

年中行事繪 六十卷 現存二十餘卷

好古小錄云土佐家傳曰凡六十卷今所存二十餘卷

画刑部大補光長事々物々古々徴スヘシ此画及春日

驗記画卷中ノ至宝也

土佐系圖云光長從四位下画年中行事六十卷在官

庫粉本中有献菅蒲
圖他家所未有

名画右彙云藤原光長邦隆男雖土佐氏累代不墜

業於光長最稱傑出嘗蒙勅令画年中行事画六

十卷詞則雅經卿筆按光長奉事 後鳥羽帝朝画

系以爲經隆子或爲經隆孫下忌并非是矣經隆建長
中画南殿障子是以可見其誤也

顏表目錄云年中行事繪刑部大輔光長筆同異
本同異本獻菅蒲四同異本御前除目四又追加又
年中行事十五卷異本六卷

倭錦云画春日光長訂起鳥升雅經卿

舳艫訓三卷云住吉廣當字曰慶丹曰此卷物禁中ニ在シテ

住吉如慶持借ノ画ス其後禁中ノ御水焼失ス今

林系中ニアル如慶カ画ナル由聞及ベリ此卷物全部

ハ六十卷有シカテハ十六卷残リテアリ訓書ハ萩原

雅經卿ナリ繪ハ土佐光長也ト云々貞大按ニ彼卷物ハ

古禁中ニ在シ年中行事御展風ノ繪ヲ寫シ傳ヘシテハ

シ其展風ノ事古書ニ見ユタリ其画ヲシルニ大極殿ヲ画

タリ大極殿ハ高倉院ノ治承元年四月廿日焼失ス此

後造営ナシト百鍊抄ニユタリ然レハ治承ヨリテ前大極

殿現存セル時代ノ画ユノ繪ナルヘシ光長ハ順徳院御代頃

久ニテ信實ト同時ノ人ナリト廣當云リサラハ昔ヨリ在

シ年中行事ノ繪ヲ光長カ再寫セル成ベシ

住吉家藏粉本每巻記云年中行事於六卷者所々

繪者雅經卿仙洞様為初定家重寶可加者也又者朝

廷之御用可立思召由池尻宮内御殿為奉捧借寫所也誠至子々孫々望有尔不如之此筆風以可為一流鑑心少時不可他見者也所持法橋住吉如慶印二代目具慶印 同至石月内記 印

現存粉本目錄

大饗

朝覲行事

二卷臨時客

踏歌

五節

賭弓

雞合

内宴

蹴鞠

献菖蒲

躬禮

弓場初

叙位

左右近衛射

着駄政

印地打事アリ

齋院御襖

稻荷祭

城南神祭

鎮魂祭

平野祭

六月枝

関白加茂詣

神事近江四宮祭ト云

神祭春日若宮祭ト云

神事

未詳

行事

未詳

御燈

御齋會内論義 加持香水

灌佛

真言院御修法

仁王會

佛事

未詳六卷

菱綺殿舞妓

加茂臨時祭

一卷

宮内省園韓神祭

神祭

未詳二卷

御齋會

標注云此四種目六加ふべし然るも必重漫而らん任吉家目六と也枝ヲ要を但本文ノ目六と誤草文庫の花本ヲ以テ記スル此本ハもと將野膳ハの花ありと躬行の記アリ
躬行抄ニ上件平貞丈ハ軸轆訓ニ了年中行事御展風所見者一
元年中行事御障子此誤ニはあり也彼御障子ハ仁仁和
治承燒止已前ノまのありと大極殿を見て画ノ事志傳れば

稱さぬ物語 一卷

画春日隆能具慶 訶寂蓮法師不珉

模本真書云天和二年正月写之具慶

躬行拙子主殿 隆能分脚子左門佐清 錫男 嘉永以の人 有依之 叙 蓮と後成に 甥建仁二年 七月七日 嘉永に後依く 子九千餘年 書画の時代 つかひなき

子日繪訶 一卷

後深心院関白記永和元年 五月十九日云及晚自徳洞被下御書

云々又依召進繪一卷子日繪訶花山院御筆云其子

細著基通公賢寺殿一紙所令注置繪也

子日御遊圖

画回品目裁之

子日御遊再興圖 一卷

画回品類云少外記友俊撰

鼠雙紙 一卷

倭錦云刑部大捕光信筆類聚目六

乃部

野御幸圖

圓朝書目載之

品目品類
亦載之

信長公像

一幀

東帶肖像画工未傳

大徳寺銘
見院藏

能惠法師繪詞

一卷

倭錦云画左近將監行長詞寂蓮法師

元享親書

卷七

云八景安四年甲子南京能惠法師死對

簡王宮授般若

徵考云能惠法師大納言
藤原宗能公之子也

明月記

寛喜三年
六月十日

云今日如闇時房朝臣妻之母能惠得

業魔官之娘也因茲宗平朝臣成所縁之儀宗朝侍従

法師居住仲左宅為右筆之人云々

春村按子尊卑分脈子直長公次男朝宗公流内大臣宗能公十五男東大寺中納言得業能惠生人仁安四年正月十六日の減先年病悩死去而依八幡大般若経費願事自冥途被返遂願りと云々遷寂の年另新書と不同あり

普賢雄云此巻は世上あり西邨宗先所画の巻此殘巻一巻長八寸五分の小巻もと太奈一子院の所傳画行長詞寂蓮書画とも妙あり

躬行云行長は建仁兼元中の人と云ふ説ありとも行長所画在栴天神縁起子元應元年の自跋あり上件の説ともは謬りあり寂蓮は建仁元年寂一を世と行長子先きりあり有餘年世運さらは合う云々此巻子太奈廣隆寺にあり此書画とも妙絶あり畢ハ寺傳あり國中

日本國東大寺花嚴宗大法師能惠と記き即簡王の使ともありて能惠地獄をめぐり國あり惜むへし首尾いささう破裂あり

明治十年三月於廣隆寺見之詞を加へて行はるとありきあり云々此巻はくありありて云々此前此詞欠きあり

能惠得業繪

高山寺聖教目錄第一合能惠得業繪在禪堂院

展覧目錄高山寺云義湘元曉繪并能惠得業繪納一合

東朝書史云能惠得業梅尾僧也性嗜画其所寫在梅尾

躬行云画史子能惠所寫在梅尾と記しは此巻をいふ所あり此は能惠繪詞の目録ありて別人の書画あらん彼書跡漏注々如此失あり

信実朝臣自画像 一幀

賛如圓法師用片假名書自詠

新拾遺集信実朝臣みはうの影を写しおきて

侍りて家を見まうして此ありまへりて如田法師

在もいひ傳み海も有り記おもつけをる子

知りてさうはしお記をむ

信實朝臣正四位下九京權大夫正四位下右京大夫隆信朝臣男

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 隆信 and 朝臣]

